

アンモナイト

分類：菊石目 (原始頭足亜綱 頭足綱)
 学名：各項に記載
 英名：Ammonite

恐竜が海陸空に縦横に猛威をふるった中世代の頃、海中ではアンモナイトが全盛を誇っていた。この出現は、約4億年前のデボン紀で、約7千万年前の白亜紀の終期頃絶滅したが、全世界の海成層に化石として多数発見される。タコやイカ等の頭足類に近縁種で、約200科、1,800属、10,000種が知られている。或る属や種の生存期間が比較的短かったため各時代の示準化石として重要な意義をもつ。殻の形の等角渦線が顕著に画かれたものが多く、これらの巻きが緩んだものや、棒状のものなど、多種多様で大きさも1~2cmから2m位の超大型のものまであって区々である。動物体が大きくなるにつれて殻を前方にと拡大生長し、常に一番外側の室に住み、各室はそれぞれの隔壁で仕切られ、膜質の連室細管と呼ばれる細い管で連絡されている。



ペリスフィンクテス科 ジュラ紀中期
Berbericeras sekikensis



モルフォケラス科 ジュラ紀後期
Reinkeia crassicostata



科不詳
Ammonoidea sp.



ノストケラス科 白亜紀末期
Nostoceras helicinum



フィロケラティス科 白亜紀後期
Hypophylloceras bizonatum



ペリスフィンクラス科 ジュラ紀?
Virgatosphinctes transitorius



アンモナイト



科不詳
Ammonoidea sp.



アマルテス科 ジュラ紀
Pleuroceras sphinctum



ペリスフィンクテス科 ジュラ紀後期
Perisphinctes cf. caribeus



ペリスフィンクテス科 ジュラ紀後期 *Perisphinctes cf. caribeus*